

大阪信用金庫本店ビル

Osaka Shinkin Bank Head Office

No. 03-087-2025作成

新築
事務所

発注者	大阪信用金庫	カテゴリー			
設計・監理	株式会社大林組 OBAYASHI CORPORATION	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	株式会社大林組	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

まちにひらかれた都市型信用金庫

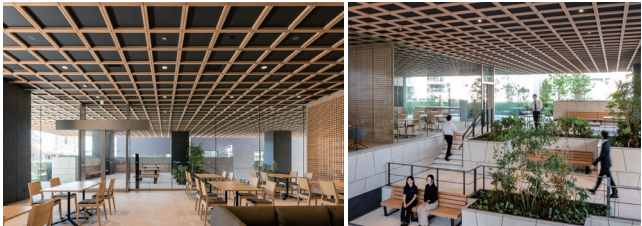
キャッシュレスやクラウドデータ管理が進んで堅牢に守るものがなくなりつつある今、ATMや窓口利用の機会が減って地域の接点が失われつつある今、100年以上支え続けてきた地域との新たなつながりを生む場となる、まちにひらかれた信用金庫を目指した。

多層にまちとつながる 地域にひらかれた 憩いの場

ゆとりある敷地がある地方とは異なり、都市型の信用金庫では、前面道路に面して必要な機能（ロビー・ATM・本店営業部・地域開放スペース・駐車場など）を計画することが困難となるケースが多い。大阪信用金庫本店では、高低差のある敷地や地形を活かし、まちにダイナミックかつ多層にひらき、地域にひらかれた憩いの場を生み出した。地下1階の駐車場出入口から、1階のロビー・ATM・本店営業部、2階の地域ラウンジまで、ステップガーデン・ステップグリーンが人々を導き、多様な地域との接点を生み出している。大通りにダイナミックにひらかれたエントランスピロティは、本店営業部やエントランスロビーへの来客を迎え入れるだけではなく、お祭りやイベント、キッチンカーなどで地域に開放される。また、8階の大ホールや3階のセミナー室も地域に開放利用が可能であり、非常時には2階の食堂・ラウンジを地域の防災拠点としても開放できる計画となっている。



前面通りにダイナミックにひらかれたエントランス



地域開放可能なラウンジ(2階) 緑豊かなステップガーデン



断面構成・ウェルネス&省エネメニュー



ロビー・ATMコーナー・ラウンジが顔を出す2層吹抜けのピロティ

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価	
所在地	大阪府大阪市	BP1 0.75	
竣工年	2025 年	BE1 0.48	
敷地面積	1,979㎡	LCCO2削減 22 %	
延床面積	10,579㎡	BELS ★★★★★	
構造	S造 一部 SRC造/RC造	ZEB Ready	
階数	地下1階、地上9階		



開放的な明るい内部階段



前面通りに面する外部階段



リフレッシュラウンジ



四天王寺・夕陽を望むテラス



キャンチスラブ×分散コアが生む 外とつながるワークプレイス

既存躯体の内側で合理的に免震層／柱を計画しながらも、西へ約4m／南へ約3mキャンチスラブで跳ね出し、ゆとりあるフロアプレートを確保した。また、WCやEV、階段などのコア機能を分散配置することで生み出した、前面道路にひらかれた外部階段や、夕陽を受け止めるリフレッシュラウンジ、四天王寺を眺めることができるテラスが連続する、西面のキャンチスラブで生み出されたスペースは、屋外感（屋外に近い開放感・明るさ感・温熱感）を感じる場となる。安定した均質環境を提供するインテリアゾーンに対して、多様に外部とつながる緩衝ゾーンとすることで、西面と南面にフルハイトサッシを採用しながら、ZEB-readyを達成した。また、放射パネル空調やサーカディアン照明制御、利用を促す開放的な内部／外部階段、木材や緑によるバイオフィリックデザインなどを採用し、CASBEE-ウェルネスオフィス認証のSランクを取得した。天井や建具、受付カウンター、ブラインドなどには、約60m³の国産木材を利用し、エンボディードカーボンを低減（約40tのCO2を固定）している。

100年を超えて共生してきた 地域の風景をつなぐファサード

四天王寺の印象的な軒が積み重なるデザインを、木目調PC板と小口を見せた木ルーバーで構成された軒天井によって継承し、地域の風景の記憶をつなぐことを目指した。テラスや大らかな軒天井によって外と内をつなぐことで、これまでの堅牢性や格が求められた金融機関にはない、「ひらかれた」イメージを発信するファサードを実現している。また、四天王寺や夕陽を望むことができる稀有な立地を活かし、風景だけではなく、夕陽を眺める「日想観」という四天王寺の文化もまた、受け継いでいくことを意図している。夕陽を受けて煌めく外部階段のスクリーンや、ステップガーデンと内部をつなぐ大らかな木格子天井も、地域の風景をつなぐ役割を担っている。また、ステップガーデンや外部階段の石スクリーンによって、四天王寺七坂の階段や石垣のある風景が呼び起されることを意図している。

設計担当者

統括：黒川宗範／建築：三谷勝章、伊藤翔、鎌田順寛、豊島浩太郎、勝部秋高、福田曉子

構造：北山宏貴、笹元克紀、弘中敏之、設備／井原俊一、茂木麻美子、谷口崇子、牟田彬俊、彦根佑芽、久山拓、平岩大知

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2. 2.

耐用性・信頼性（免震構造の採用、72時間BCP対応、地域の防災拠点利用、EV充電スタンド）
- Q3. 1.

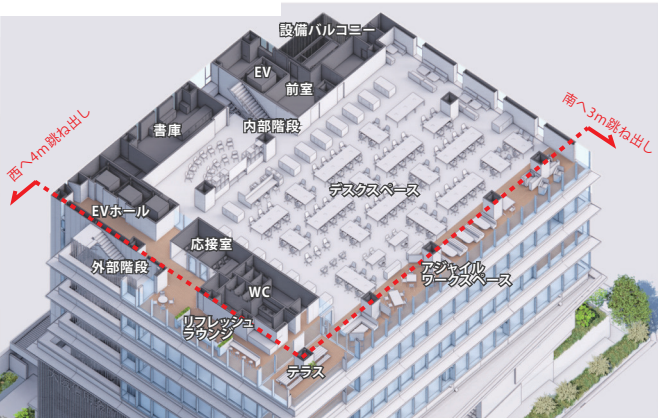
生物環境の保全と創出（地域の緑をつなぐステップグリーン・ルーフガーデン）
- Q3. 2.

まちなみ・景観への配慮（100年を超えて共生してきた 地域の風景をつなぐファサード）
- Q3. 3.

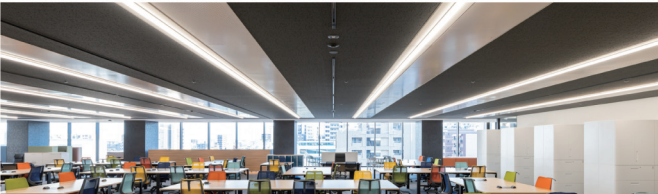
地域性・アメニティへの配慮（多層にまちとつながる 地域にひらかれた 憩いの場、CASBEE）
- LR1. 3.

設備システムの高効率化（ZEB-ready、グラデーションオフィス、アダプタブル照明システム、放射パネル空調）
- LR2. 2.

非再生性資源の使用量削減（既存躯体の山留・底板利用、国産木材利用）



執務フロア平面構成



放射パネル空調を採用したデスクスペース（インテリアゾーン）



地域の風景を振り所にした外観デザイン